

	九州大学 人文科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	文学部（第1年次：160名） 人文科学府（M：56名、D：25名） 人文科学研究院 統合新領域学府（M：61名、D：14名）
沿革	明治44（1911）年 九州帝国大学設置 大正13（1924）年 九州帝国大学法文学部設置 昭和24（1949）年 九州大学文学部設置 昭和28（1953）年 文学研究科設置 平成12（2000）年 文学研究科を改組し人文科学府設置 平成21（2009）年 統合新領域学府設置
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、哲学・歴史学・文学・人間科学の視点から人間の在り方の全体を捉える知の営みに触れることを通じて、適切な思考力と表現力、総合的なものの見方を身につけた人材を組織的に養成することを目的として、文学部が設置された。</p> <p>昭和28（1953）年に、文学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的として、文学研究科が設置された。</p> <p>平成12（2000）年に、研究科再編により、学府・研究院制度を創設し、教育組織として文学研究科を改組し、人文科学府が設置され、あわせて研究組織として人文科学研究院が設置された。</p> <p>平成21（2009）年に、科学的な知の統合と創造を通じて、現代の科学や社会が問いかける複合的かつ根源的な課題の究明に取り組み、その知的成果を社会に還元するとともに、自らそのような知の担い手として活躍する高度な専門人材を組織的に養成することを目的として、統合新領域学府を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p><b>【総論】</b></p> <p>九州大学における人文科学分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における人文科学分野の先導的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p>

## 【教育】

### (学部)

- 人文科学の学問分野の教育研究を通じて、専門的な探求スキルとそれを支える幅広い人文学的素養を備え、自ら問題を発見し、参考文献の収集、これらの批判的な検証により、適切に自己表明するという、汎用性のある一連の方法論・能力を身に付け、広く社会で活躍できる人材を養成する。
- このため、人文科学に共通的な教育方法に関する研究を進め、共通科目「人文学」の実施や「東アジア世界の交流と変容」等の人文学入門教科書を作成する等、人文学的素養の育成に向けて取り組んでいる。
- 今後、学生が身につける人文科学分野における総合力や付加価値を明らかにし、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備する。また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

### (大学院)

- 人文科学分野では、専門分野において自ら課題を設定し、収集した文献・データと先行研究とを批判的に総合して課題を解決することができる高度専門職業人・研究者を養成する。  
このため、歴史学拠点コースを設け、領域横断ゼミによる教員・大学院生共同参加授業の実施に取り組んでいる。  
統合新領域分野では、文理融合型の統合的かつ新しい科学的な知や価値を追求して、現代の科学や社会が抱える重要課題の解決に取り組み、図書文献資料やアーカイブス資料の情報管理・提供の在り方を研究し、現場で活躍する情報専門職を養成する。
- 今後、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。また、英語のみで学位取得可能なカリキュラムの充実を図るとともに、欧米等の海外大学との連携を強化し、人文科学分野の教育の国際通用性を確保する。

## 【研究】

- 東洋史等の史学全般における人文科学分野の優れた研究実績をいかし、日朝関係を中心とする東アジア交流史研究等に取り組んでいる。  
統合新領域分野では、我が国初のライブラリーサイエンス分野として、産学官の連携により、新たな研究領域やキャリア形成の開拓に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、人文科学分野では日朝関係を扱った共同研究において日本側の研究代表者として複数の教員が参画した。また、統合

新領域分野では、地方自治体の公文書の廃棄選別に際して、文書記録管理学の観点からの関与・助言につながっている。

- 今後、総合的な研究を組織的に推進するとともに、我が国の社会の課題解決・文化の発展に貢献することを目指す。また、アジア研究の深化を目指し、特に歴史学部門やライブラリーサイエンス分野におけるアジア・欧米大学との国際共同研究を推進し、我が国の社会・文化に関する研究成果を国際的に広く発信する。

**【その他】**

- 基幹教育院の構築に伴う学士課程教育の改革促進をはじめとした、全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。特に、複数の学部で展開されている心理学系コースについては、学部を超えて教育課程の連携を進め、組織再編成を検討する。また、大学院の定員未充足及び志願状況の改善のため、魅力あるカリキュラムの再構築、抜本的な定員規模の見直し等に取り組む。